

中山間地域における地域住民と移住者のコミュニティ形成に関する研究

～徳島県・神山町を事例として～

1190487 高井 千歌

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

近年日本の中山間地域では、少子高齢化による人口減少が危惧されている。徳島県・神山町ではその改善策として、各地で移住政策を積極的に行うことにより、都市から中山間への人口回帰を促している。その中で、徳島県・神山町では、NPO 法人グリーンバレーが窓口になり、改善対策として移住者の定住を目的に、サテライトオフィスの設置を行っており、若年層の人口が増えつつあるという現状にある。そこで、本研究では、地域住民と移住者にヒアリング調査を行い、地域住民には移住者に対するの思い等、移住者にはどのような行動から地域住民に受け入れられ、上手くコミュニティを創造したのか等の双方の考え方を明らかにし、地域住民と移住者が住みやすい地域作り、またよりよいコミュニティのある地域とするための問題点を抽出し、その解決策を提案する。

2. 背景

近年日本の中山間地域では、少子高齢化による人口減少が危惧されている。

徳島県では過疎地域などに指定された 15 市町村の 1691 集落のうち、2015 年 4 月末までの 5 年間に居住者がいなくなった「消滅集落」が 12 集落を数え、65 歳以上の高齢者が住民の半数以上を占める「限界集落」は全体の 42.8%にも達し、山間部の過疎が一段と深刻化している。

住民が高齢者だけだったり居住者が 10 人未満だったり、10 年以内に消滅集落となる恐れがあるのは、全集落の 5.6%に当たる 95 集落である。また、子育て世代がいなかったり人口減少率が大きかったりし、いずれ消滅集落になるとみられるの 13.8%である。(2016 年 11 月 13 日現在)

その消滅集落の一つともされている神山町では、その改善策として、各地で移住政策を積極的に行うことにより、都市から中山間地域への人口回帰を促している。

しかし、中山間特有の人間関係のコミュニティや、移住後のアフターフォローが不十分であったことから、定住率の低下や短期間で移住が終わってしまうという事例が多々みられる。

その中で、徳島県・神山町では、NPO 法人グリーンバレーが窓口になり、改善対策として移住者の定住や関係者人口の増加を目的に、サテライトオフィスの誘致や、「場の価値」を高めるためにアート作品を設置したり、求職者支援の施設を創設するといった取り組みを行っており、若年層の人口が増えつつあるという現状にある。今後神山町には、移住者の長期定住率の増加が求められていると考えられる。

閉鎖的なコミュニティといわれる中山間地域において、本研究で示す、よりよい地域コミュニティ形成に関する提案を行うことで、日本の抱える問題の一つである中山間地域において移住してきても短期間の移住で終わってしまうという問題や、地域住民と移住者が上手く築けないことによる短期間移住等の問題についての解決策の一つとなるのではと考える。

3. 目的

本研究の目的は、徳島県・神山町を対象として、地域住民と移住者が住みやすい地域作り、またよりよいコミュニティのある地域とするための問題点をヒアリング調査より抽出し、その解決策の提案を行う。

4. 調査方法・研究手順

本研究は以下の手順で行う。

①徳島県・神山町を対象として、「地域住民」と「移住者」に対して、よりよい地域コミュニティを築いていくために何が必要かを抽出するため、ヒアリング調査を行う。

②ヒアリング結果から得られた「地域住民」と「移住者」の声から、地域コミュニティの関係をよりよくするための提案を、先行事例と照らし合わせながら行う。

5. 神山町の移住政策

5-1 神山町の概要

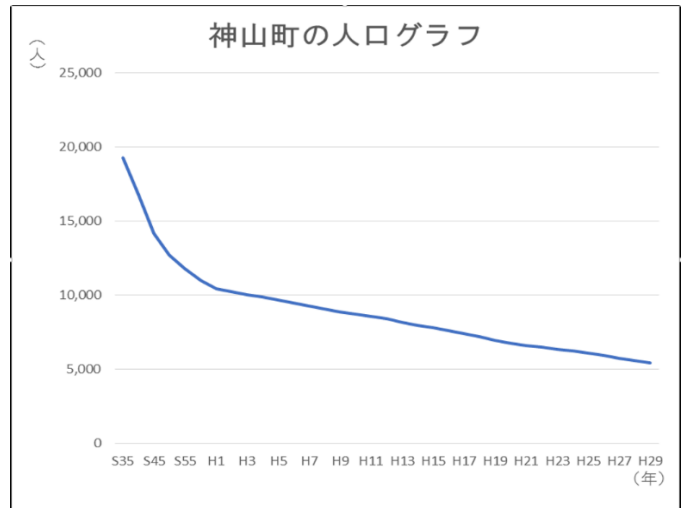
神山町は、徳島県の北東部に位置し、300～1500m級の山々が、面積の83%も占めている緑の豊富な地域である。その豊富な緑の中で育てているすだちは日本一の産地とされている。人口は日本人5,251人、外国人54人、計5,305人（平成31年2月1日現在）であり、高齢化率は49.5%（平成27年現在）にも達する市町村である。



<http://www.mapfan.com/japanmap/map/36.gif>

(図1 神山町の位置)

人口については、1960年に約2万人近くいた町民も、2017年には約5300人にまで減少しており、現在も減少傾向にある。



神山町役場 HP より (H31年2月4日作成)

(図2 神山町の人口グラフ)

5-2 神山プロジェクト

神山町における移住定住政策の現状について代表的なプロジェクトは以下の通りである。

①「ワーク・イン・レジデンス」(企業誘致)

徳島県の光ファイバー網の普及率は全国一位であり、IT企業やデザイナー業等、働く場所を選ばない企業が多く入ってきている。神山町は、空き家を住居やオフィスとして提供している。

この神山町の企業誘致の中心的取り組みをしているのは町役場ではなく NPO 法人グリーンバレーであり、民間の団体である。

町の将来にとって、必要と思われる「働き手」「起業家」を逆指名というプロジェクトである。

以下がそのイメージ図である。



(図3 「ワーク・イン・レジデンス」のイメージ図)

図3で示した通り、パン作りが出来る等、スキルを持った人が仕事と一緒に神山にやってくるというイメージである。

②「アーティスト・イン・レジデンス」

地域の魅力を高めることを目的としたプロジェクトである。アート作品を町に設置することにより、滞在満足度を上げ、神山町の持つ「場の価値」を高めるといった効果が得られることが考えられる。

写真1 カラオケ鳥居



ドイツ在住の米アーティスト・Benoit Maubrey さんの作品
(平成 27 年 8 月 23 日筆者撮影)

この作品はブルートゥースにより携帯等と繋げて、音楽を流すことができる作品である。筆者自身がこの場に訪れた時

には、人がひっきりなしに訪れていた。アート作品の魅力が人を呼び寄せることを感じた。

現在は昨年起きた台風被害により、壊れてしまったが、このアート作品を復活させようと寄付を募る活動が行われている。

②「神山塾」

求職者支援訓練による後継人材の育成をすることを目的としたプロジェクトである。このプロジェクトにより、参加者の移住率は約50%で、就職はもちろん、塾でカップルが誕生するといった婚活にも繋がっている。

5-3 神山町のイベント

①イベントについて

神山町では、地域イベントも積極的に開催している。「イン神山」というサイトにイベント情報を載せることで、町内外から参加者を募る。数年前まではメールによって、イベント情報を配信していたが、サイトを設立し、そこに情報を載せることで、不特定多数の人物に宣伝することができ、特に町外からの参加者を呼び込むことに成功したと言える。

実際に、町外からの参加者の数が多いということがヒアリング結果より、明らかになった。

②イベントの例

神山町で行われているイベントを、今回は「イン神山」に載っている情報を基にしてまとめた。イベントはそれぞれ、「アート」、「学び、ものづくり」、「マーケット」、「ごはん、集い」、「地域の行事」、「遊び、そのほか」として分類されている。

◆ 「アート」のイベント例

町に残っている寄井座にて、「神山の眼鏡店」映像インスタレーション作品を見ることができる。

このイベントでは、その他にも大栗山アートウォークとして、町の有名どころでもある大栗山にも登り、その各地に置かれたアート作品を見る等、楽しむことができる。

◆ 「ごはん」のイベント例

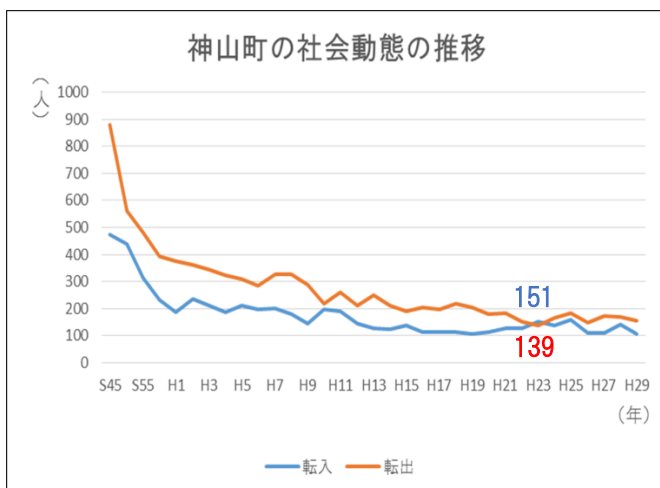
恵方巻き de モーニングは、町で有名なごはんどころの一つであるかま屋が主催し、自分だけのオリジナル恵方巻きを作ることができるイベントである。

小さな子どもも参加することができるイベントであり、遊ぶ場が無いとされている町民の子どもたちにとって、とてもワクワクできるイベントであると考えられる。

5-4 神山町の社会動態人口の推移

これらのプロジェクトやイベントの取り組みにより、神山町の社会動態人口は2011年度一時的に社会増となり、2012年度からは再び社会減に転じているが、この間、圧倒的に若い世代が転入しているという効果をもたらした。

ちなみに、社会動態人口が増加することは、町が発足して以来のことである。



神山町役場 HP より (平成 31 年 2 月 9 日作成)

(図 4 神山町の社会動態人口の推移グラフ)

5-5 NPO 法人グリーンバレーの基本的概要

これらのプロジェクトや取り組みを率先して行っている団体が、NPO 法人グリーンバレーという民間の団体である。

設立 2004 年 11 月 24 日、設立者は大南信也氏、現代表は元粟カフェのオーナーである中山竜二氏である。

神山町を活力があり、住みよい町にすることを目的とし、「創造的過疎」による持続可能な地域づくりを目標の一つとして掲げている。

5-6 神山町の取り組み効果

サテライトオフィス事業として、企業を誘致することにより、地域に雇用が生まれるメリットがある。また、移住者が増えることにより、地域に新しい風が吹き、町が活気づいたと言える。

アート作品を町に設置することで、アート作品を見に来る人、またカフェを訪れる観光客が増加した。

神山塾利用者は移住率 50%、またカップルも誕生する等、婚活にも繋がるという効果が生まれた。

そうした効果より、地域が自然と活性化するという効果がある。

NPO 法人グリーンバレーの活動により、図 4 のように一時的ではあるが社会動態人口を増加させることに成功したと考えられる。

6. ヒアリング調査

本研究は、ヒアリング調査を用いて、よりよい地域コミュニティを築いていくために何が必要か、その問題点について課題を抽出し、解決策を提案するための調査を行う。

6-1 ヒアリング調査概要

目的：よりよい地域コミュニティを築いていくために何が必要か、その問題点について課題を抽出し、解決策を提案するため

日時：平成 31 年 1 月 31 日

場所：神山町環境改善センター

対象：神山町の地域住民、NPO 法人グリーンバレーの代表、中山竜二氏 (移住者)

6-2 ヒアリング調査内容

◆ 地域住民に対して

- ・移住者が入ってきたことによるプラスとマイナス面について
- ・移住者に求めたいこと、移住者への思い

◆ 移住者に対して

- ・地域に溶け込むために努力したこと

等、ヒアリング調査を行った。

これにより、よりよいコミュニティを築いていくために何が必要か、その問題点について課題を抽出し、解決策を提案したい。

7. ヒアリング結果

◆ 移住者に対する地域住民の声

プラス

- ・町が活気づいていると感じる。
- ・移住者の方が来られたことで、何か始めてみようと考えて地域住民も増えた。
- ・移住してきた若い人と話すのは楽しい。

マイナス

- ・貸した家を勝手に改装してしまう移住者もいる。
- ・町の一斉清掃等の行事に参加しない移住者もいる。
- ・近所づきあいをしない移住者もいる。
- ・移住者が移住者同士で固まってしまう。

◆ 移住コーディネーターの声

NPO 法人グリーンバレーの良さ

- ・地域に強制せず、町へは出入り自由。
 - ・ラフで緩さが大事で、心地よく魅力的に感じる。
- よって、自由だからこそ、本当に住みたい人が集まる。

◆ 移住者の声

地域に溶け込むために努力したこと

- ・イベント事には積極的に参加。(移住前にも)
- ・色々なことに顔を出していた。(古文書を読む会等)
- ・祭りの準備を手伝う。
- ・ネットのわからない住民の代わりに注文してあげる。
- ・月に一度は集まりを行う。
- ・地域住民とのだけでなく、移住者の方の集まりにも行く。
- ・家の行き帰りの畑で話をする。
- ・人と人を紹介によって繋げる。

8. 考察

NPO 法人グリーンバレーを対象としたヒアリング調査の結果、移住者に対する取り組みの特徴として、地域に強制せず、無理に引き留めない点で他地域と大きく異なっている。このことで、心地よい緩さがあり、本当に神山町に魅力を感じて、住みたいと思った人が残る要因となっている。また、この緩やかな点は、地域と移住者、および移住者間での接触を容易にするメリットも有する。これにより、移住者の悩みを容易に相談できる環境になり、結果として移住者間のトラブル防止に役立っている。

これは民間の団体だからこそ、移住者と距離が近く、できることであると考えられる。

以上を整理すると、移住者が増加している要因（取り組みのメリット）は以下の三点にまとめることができる。

- ①移住者が地域に入りやすい環境が整備されている。
- ②移住者間のコミュニケーションが図りやすい環境にある。
- ③移住者にとって、心理的負担が少ない環境にある。

9. 課題

一方で、地域住民やグリーンバレーを対象としたヒアリング結果から、地域住民と移住者間の問題も見いだせた。

①地域住民と移住者を繋ぐ「場」の不足

地域住民は、移住者が入ってきたことで、町が活気づいていると感じており、観光客も増えてきて、良かったと思っている。そして、もっと移住者と繋がってみたいと思っている。しかし、移住者のことをあまり知らないため、移住者に偏見の目を持ってしまったり、自分たちからは関わりづらいている人は少なくない。

以上のことから、移住者と地域住民を繋ぐ人や場の創設が必要であり、お互いに本音で話をする場や機会の創設を行うべきである。これらの取り組みを行うことで、移住者の長期定住化に繋がると考えられる。

②地域イベントが限定的

地域イベントも積極的に行われているが、参加者は町外からの参加者か、ほぼ移住者であり、限定的なものであり、地域住民は傍観している人も少なくはない。

このことから、地域住民と移住者の両者が参加できるイベントが必要とされていると考えられる。

10. 地域づくりの先行事例

①徳島県の南部にある漁村集落、伊座利(いざり)地区の例

1990年代はじめには、すでに高齢化率は40%を超えていたこと地区は、行政に頼らず、住民で町を活性化させようという方針を決めた。そして、後に日本一変わった運動会と言われる「共楽/享楽運動会」を開催することとなった。

住民全員が参加（小学生から100歳のおばあちゃんまで参加する）であり、唯一ある小さな学校の運動会を盛り上げるために、地域の住民が企画から運営までを行っている。

主役は小学生ではなく地域のおじさんであり、おじさんたちが勝手にルールを変更、リレーの邪魔をしたり、突然宴会をはじめたりと、やりたい放題行い、景品は土鍋やほうきにビールといった変わった物である。

しかし、この運動会等が話題になり、人口流出による少子高齢化に悩まされていた伊座利地区に、続々と移住者が来るようになった。

45%まで上がってしまった高齢化率も、20%代にまで回復（2017年12月20日現在）した。

成功の要因として、運動会を盛り上げるためにも、地域全体で参加し、主役を子供からおじさんたちまでに広げること、とてもユニークな運動会として、地域全体で楽しむことを大事としたことが考えられる。

結果として、人口の約6割が移住者、高齢化率が20%代（2017年12月20日現在）という驚異的回復を見せた。

②高知県幡多郡大月町の例

大月町は、四国西南端に位置しており、人口5,707人の農業と漁業の盛んな町である。平成13年9月6日高知県西南部豪雨の大災害を教訓に、大月町女性防火クラブが中心となり、大運動会等を開催している。水バケツリレー等を運動会の競技として、楽しみながら防災知識を高めている。

多くの住民が開催の意図を理解し、南海トラフ地震対策としても、地域になくてはならないイベントの一つとなっている。

③東京都板橋区高島平駅前商店街の例

商店街の空き店舗を利用して「コミュニティーカフェ」が各地に広がっている。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の世代を超えた交流の場として親しまれている。「コミュニティーカフェ・高島平駅前」は誰でも利用でき、店内では、定期的に英会話教室、短歌会、紙芝居、朗読会といったさまざまなイベントが開催されている。

コミュニティーカフェでは、顔見知りと毎日会話を楽しむことができ、団地が元気になることが考えられる。

④東京都世田谷区にある賃貸住宅とサービス付き高齢者向け住宅などの複合団地の「コーシャハイム千歳烏山」の例

「コミュニティーカフェななつのこ」は高齢者はもちろん、子育て中の人も利用する多世代交流施設である。

寄贈された図書を読みながらくつろげるカフェスペースと、セミナー等に使えるレンタルスペースがあり、イベントとしては、ギター等の生演奏に合わせて曲を歌ったり、古い映画の上映会、子ども対象に読み聞かせを行うといったことを行っている。

実際に、子育て世代と話すのは楽しいという高齢者の声もある。

11. 先行事例からわかったこと

①大運動会について

地域全体で盛り上げていこうと団結して、地域住民全員が参加する運動会を試行錯誤しながら企画運営を行い、尚且つ楽しむことで、団結力が生まれ、地域のよいコミュニティ作りに繋がる。

結果として、話題性を生み出し、移住者を呼び込むことに成功する可能性があることや、運動会の内容によっては、楽しみながら防災意識を高めるという効果もあること、そして、いざという時に、近所の人と知り合いであることから、助けてもらえるというメリットがある。

役員になれば、近所の家を回ったり、準備等から、かなりの負担になるというデメリットも存在するが、地域に存在する協議員が運営を補助してくれたり、役員をすることで、より深く人との繋がりを持つことができるというメリットもある。

②コミュニティカフェについて

特に単身者となっていく可能性がある、またすでに単身者となってしまった高齢者にとって、「コミュニティカフェ」は人との繋がりを持つことのできる憩いの場となっており、なくてはならないものである。

イベントを行う等、利用者が楽しめる仕組み作りが大事である。そうすることで、来たいときに来て、帰りたいときに帰るといった、ほどよい距離感のあるコミュニティを築くことができると考えられる。

また、子育て世代といった若い世代にとっても、子育ての先輩である高齢者と交流の場があることで、悩み事の相談等をする場にもなっているかもしれない。そして、子どもにとっても楽しむことのできるイベントもある。

以上のことから、コミュニティカフェは幅広い年齢層の世代を超えた交流の場となっているといえる。

12. 提案

以上のことから、神山町の新たな移住定住政策の取り組みとして、次のことを提案する。

交流の場の創造

(1) 中山間地域における地域住民の交流の場として、カフェが地域住民の憩いの場になっている時もある。そして、神山町では、カフェをもっと地域住民のために活用して欲しいと思っている人もいる。

このことから、

- ・囲碁や将棋のふれあいや大会を行う。
- ・イベントスペースを持っているカフェでは、新たな料理メニューの試食会や地域のアーティストを呼んだイベントを積極的に行う。

以上を提案する。

この取り組みにより、地域間での新たな定期的にかかれるイベントが生まれることや、子どもたちに囲碁や将棋といった遊びにふれあってもらえるというメリットがある。

(2) 地区をあげてのイベントがあまり無いことから、地域

住民と移住者の触れ合いの場がなく、知り合える場がないことが明らかとなった。

このことから、地区全体で運動会や祭りを行うことを提案する。

この取り組みより、お互いに知り合うことができ、新たなコミュニティを作ることができることが考えられる。

13. まとめ

NPO 法人グリーンバレーのメリット

- ・地域に強制せず、町へは出入り自由
- ・ラフで緩さが心地良い。

自由だからこそ、本当に住みたい人が集まる。

NPO 法人グリーンバレーの課題

・民間運営だからこそ、移住者と関わっているのは一部の人が中心。

一般の地域住民と移住者の距離が離れている。

地域住民と移住者を繋ぐ場が無い。

交流の場があっても、関わっているのはいつも特定の人物であり、よりよいコミュニティを築いていくためには、「交流の場」が必要である。

以上のことから、町や村の住民全体で、運動会や祭りを行うことや、町にできたカフェという憩いの場を地域の住民も参加しやすい囲碁や将棋の大会等を行うことを提案する。

このことから、普段出会う機会の無い人々を出会わせる場となり、住民間での新たなコミュニティを作る場となる。

新たな交流の場ができることで、住民間での絆が深まり、移住者の定住促進や地域に活気が生まれることが考えられる。

14. 謝辞

この研究を卒業論文として作成するにあたりまして、貴重なお時間を割いてヒアリング調査に協力して下さった神山町の地域住民の方と NPO 法人グリーンバレーの理事長である中山竜二さんには心から感謝の気持ちを申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。そして、本研究を進めるにあたりまして、ご指導いただきました卒業論文指導教員の馬淵泰先生に感謝いたします。

15. 引用・参考文献

1. 初の人口社会増、相次ぐ視察——地方創生「神山の奇跡」はなぜ起きた？

<https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/case/700175.htm>

1

2. 総務省 HP

http://www.soumu.go.jp/main_content/000513096.pdf

3. まち・ひと・しごと創生に関する有識者懇談会資料

NPO法人グリーンバレー 理事長 大南信也

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/kondankai/h26-08-27-siryou2.pdf>

(平成 31 年 2 月 4 日最終閲覧)

4. 神山塾/KATALOG

<http://katalog-shikoku.jp/kamiyamajuku>

(平成 31 年 2 月 7 日最終閲覧)

5. 内閣府 NPO グリーンバレー 2015 年~2017 年

[https://www.npo-](https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/036000096)

[homepage.go.jp/npoportal/detail/036000096](https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/036000096)

6. JMAP 地域医療情報システム

<http://jmap.jp/cities/detail/city/36342>

7. 人口と世帯数 | 住民課 | 神山町役場

<http://www.town.kamiyama.lg.jp/office/juumin/residents/population.html>

(平成 31 年 2 月 9 日最終閲覧)

8. 徳島県のサテライトオフィス「神山町・美波町・三好市」3 地域の特徴

http://hitokara.co.jp/ht_work_so3/

9. 県内 12 集落「消滅」 5 年間県調査 山間の過疎深刻

http://www.topics.or.jp/localNews/news/2016/11/2016_14789992210282.html

10. colocal コロカル マガジンハウス Local Network Magazine 大南信也さん

https://colocal.jp/topics/lifestyle/people/20121022_12892.html

11. イン神山 | 神山町のいまを伝える

<https://www.in-kamiyama.jp/events/>

12. イン神山 | NPO グリーンバレーとは？

<https://www.in-kamiyama.jp/npo-gv/>

(平成 31 年 2 月 10 日最終閲覧)

13. 日本一変わった運動会！住民全員参加で小学校の運動会を盛り上げる「徳島県伊座利地区の運動会」

<http://chiikigoto.com/2012/10/08/01-30/>

14. いざり人 izari-jin イベント情報：東京駅前 de 子どもたちとおっさんたちが伊座利の魅力を紹介

<https://www.izarijin.jp/modules/bulletin/index.php?storytopic=0&storynum=10>

15. 住民が一堂に集う防災運動会

高知県大月町女性防火クラブ連絡協議会

http://www.n-bouka.or.jp/local/pdf/2015_05_18.pdf

16. 悩んでない？ホントに自治会の運動会は必要？廃止にする方法はある？

<https://551company.com/1075.html>

17. 町内会の役員やりたくない！！でも、意外なメリットも発見！

<https://all-space.net/cyounaikai-yakuinn-meritto-4428>

18. 産経ニュース | 地域の交流の場「コミュニティーカフェ」、各地に 世代を超えた憩いを

<https://www.sankei.com/life/news/170303/lif1703030016-n3.html>

(平成 31 年 2 月 11 日最終閲覧)